



人と地球の健康を  
**SOKEN** **SHA**

第 41 期

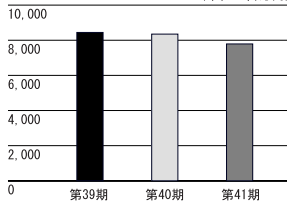
# 事業報告書

平成19年4月1日から  
平成20年3月31日まで

# 決算ハイライト

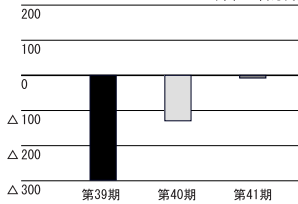
売上高

(単位：百万円)



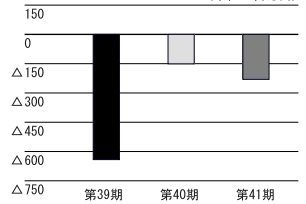
経常利益又は経常損失(△)

(単位：百万円)



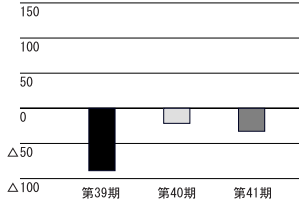
当期純利益又は当期純損失(△)

(単位：百万円)



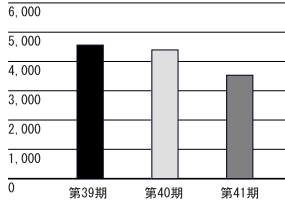
一株当たりの当期純利益  
又は当期純損失(△)

(単位：円)



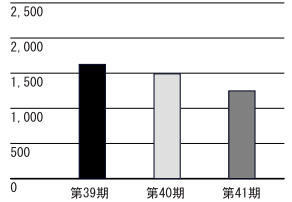
総資産

(単位：百万円)



純資産

(単位：百万円)



## ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご愛顧、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。  
ございます。

さて、第41期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）の決算が終了し、  
事業報告書を作成いたしましたので、茲にお届け申し上げます。

食品業界におきましては、食の安心・安全に対するニーズが高まる中、当  
社グループは、「地球環境を大切にし、食生活の改善を通して人々の健康的  
な生活向上に貢献する。」という創健社の経営理念のもと、食の更なる信頼  
を目指し、国民の健康増進のため一同全力を尽くして参ります。

当連結会計年度における我が国の経済は、雇用・所得環境について堅調さ  
が見られたものの、個人消費については、定率減税の廃止、原油や資材の大  
幅高騰による生活費の上昇などが懸念材料となり、先行き不透明な環境とな  
りました。

また当社グループを取り巻く食品業界におきましては、食の安全が大きな  
問題となるなど食への関心が高まる一方、少子高齢化や家庭内食の減少によ  
る需要減少が続き、原油や穀物などの原材料費や仕入価格の上昇が企業収益  
を大きく圧迫するなど、引き続き厳しい経営環境となっております。

このような状況のもと、当社グループは、全社的に更に経費削減を追求す  
るため、前連結会計年度に引き続き物流統合や営業所の統廃合、商品や取引  
の採算性の見直しによる業務の改善を進めました。また、食の安心安全への  
期待と需要の高まりに応えるとともに、新しい顧客を獲得するため、当社グ  
ループブランドのアピールと強化、高付加価値化を目指し、従来の創健社ブ  
ランドに加え、新ブランドとキャラクターによる新商品を販売し拡販を図り  
ました。

その結果、当連結会計年度における売上高は前連結会計年度比6.7%の減  
少となりましたが、販売費及び一般管理費は前連結会計年度比2億56百万円  
の減（前連結会計年度比12.3%減）となり、営業利益は前連結会計年度比1  
億9百万円増の1百万円となりました。当中間連結会計期間における営業損  
失は19百万円でしたので、当連結会計年度下半期で営業利益を確保したこと  
になり、経費削減の効果が下半期に顕著に現れたこととなります。

当連結会計年度における当社グループの商品品目別売上高については、  
「栄養補助食品」が特にブームとなるヒット商品がなく、また価格競争の影  
響により引き続き前連結会計年度を大きく割り込み、続いて「調味料」が主  
力商品の競合により大きく減少しました。新商品では、前連結会計年度末に  
おいて発売開始した、自然な原材料にこだわったお菓子「メイシーちゃん  
のおきにいりシリーズ」やイタリア直輸入のオーガニック食品シリーズ「ジ  
ロロモーニ」、ピーターラビットのデザインを入れ、ビタミンEを強化し栄養機  
能食品としてリニューアル発売したトランス脂肪酸が少ないマーガリン「発

「酵母入りマーガリン」、並びに当連結会計年度の強化目標であったOEM受託商品が売上高増に貢献しました。従来の商品では「有精卵マヨネーズ」、リニューアルした「だし一番シリーズ」、国産原料使用の商品などが堅調な伸びを示し、取扱商品では大きな売上高減少となりましたが、当社ブランド商品については前連結会計年度を上回る結果となりました。

この結果、当社グループは、売上高77億89百万円（前連結会計年度比6.7%減）になりましたが、物流統合・業務改善により販売費及び一般管理費の削減が進み、営業利益1百万円（前連結会計年度は営業損失1億8百万円）となりました。また昨年2月に株式会社ファンケルと合弁事業にて設立した株式会社品質安全研究センターについて持分法による投資損失5百万円計上し経常損失7百万円（前連結会計年度は経常損失1億29百万円）となり、当社が所有する共有資産・売却事業所の減損損失として1億92百万円、当社が保有する投資有価証券の評価損として46百万円等の特別損失2億47百万円の計上をし、当期純損失2億30百万円（前連結会計年度は当期純損失1億50百万円）という結果になりました。

## 今後の事業戦略

今後の見通しにつきましては、当社グループを取り巻く食品業界において、食の安全・健康への需要は確かなものがありますが、少子高齢化や家庭内食の需要減による市場の変化、また物流・仕入価格の高騰による経費の増加が避けられず、当社グループにおきましても引き続き厳しい状況が続くものと予想しております。

当社グループは、前連結会計年度まで営業損失、当期純損失の計上が継続しており、当連結会計年度においては1百万円の営業利益を確保したものの、2億30百万円の当期純損失を計上しており、当該損失の計上が長期間継続しております。

また、連結計算書類提出会社である当社は、営業損失及び当期純損失の計上が長期間継続しております。

当該状況を大幅に改善すべく、当連結会計年度において有形固定資産の売却により資金を調達し、借入債務（当連結会計年度末残高5億95百万円）を十分に上回る現金・預金（当連結会計年度末残高12億39百万円）を確保しました。

また、当連結会計年度下半期では営業利益を確保いたしました。この実績を踏まえて、以下の施策を実施して、翌連結会計年度においては、営業利益、経常利益及び当期純利益の計上を計画しております。

### ① 経費削減

当社グループは、前連結会計年度より物流、営業拠点の統廃合、業務の集約と業務改善により経費削減を進めておりますが、更に営業活動の効率

化と経費削減を図るため、人員を営業活動に絞り縮小した新しい布陣で、平成20年2月に福岡営業所、同年3月に名古屋営業所を開設し、大阪支店を縮小、移転しました。いずれも経費削減を考慮し、かつての自社物件から賃借物件に変更しました。

翌連結会計年度においても、引き続き採算性の向上に努め、受注の自動化、平準化による業務改善、物流業務の効率化、簡素化を行い業務、物流コストを削減してまいります。それに伴い、組織面では派遣社員の人数を減らし、現有の社員、パートで運営できるよう人員のスリム化を進めました。その効果は、当連結会計年度後半から現れており、今後も業務改善を継続することで人件費の削減に努めます。

## ② 新規取扱商品等での売上増

前連結会計年度末に発売した「メイシーちゃんのおきにいりシリーズ」、並びに「ジロロモーニ」は好評をもって迎えられ、着実に売上を伸ばしつつあり、引き続き販売促進とラインアップの拡充を図ってまいります。

ピーターラビットのデザインを入れ、リニューアル発売した「発酵豆乳入りマーガリン」は、有名キャラクター使用により当社グループ商品の新たなアピールになり、新しい売り場への導入が進みました。今後の販売促進を通じて新しい顧客層の獲得につなげてまいります。

プライベートブランド商品は他社ブランド商品を取り扱うのに比べ、商品の企画開発コスト並びに品質管理コストがかかるデメリットがありますが、他社との差別化による付加価値がつけられ、商品により直接当社グループを消費者にアピールすることが出来、また粗利率の向上が図られるというメリットがあります。引き続き安心安全志向に叶う付加価値のある商品開発とリニューアルを積極的に続けるとともに、商品の見直しと改廃による選択と集中によりコストを有効に管理し、プライベートブランド商品の販売強化による売上と採算性の向上を図ってまいります。

また、当連結会計年度に引き続き、業務用商品の販売強化により、こだわり食材の有望な新規市場を開拓します。

## ③ 不採算商品の絞り込み

当連結会計年度において不採算商品のカットを進め、多少の売上減というデメリットはでしたが、受注の業務改善、物流改善が図られました。この結果をもとに引き続き、商品の採算性を見直し、さらに商品の入れ替えと絞り込みを進め、棚卸資産廃棄損の減少や適正在庫というメリットを追求してまいります。

## ④ 価格改定と取引条件の整理

原油や資源の価格上昇による資材及び輸送費の上昇、並びに食品原材料の高騰が製造原価及び仕入価格の上昇を招く一方、卸価格への転嫁が同時

に進まず収益を低下させています。当社グループとして引き続き品質の維持を第一にしながら仕入価格や卸価格の見直し、内容量等の変更を行い、速やかな価格改定を進め、収益の改善を図ってまいります。また絶えず採算性を見直し、商品の改廃、取引条件の見直しを進めてまいります。

#### ⑤ 新中期経営計画の作成と実行

上記施策を実施するにあたり、経営資源の「選択と集中」「業務改革」により業績の回復を確実にするために、平成20年度から平成22年度の新中期経営計画を平成20年4月に作成、実行してまいります。

翌連結会計年度においては、上記施策を遂行することで売上高の減少はあるものの、採算性の改善と経費削減を実行し、黒字体質、リスク・変化に強い体質への転換を図り、業績の向上に努める所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後ともご支援、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

平成20年6月



代表取締役社長 中村 靖

## 主要商品の状況

当社グループの事業は同一セグメントであります。当連結会計年度の販売及び仕入実績を事業の種類別セグメントごと及び事業部門ごとに示すことができないため、品目別に示しております。

### 品目別主要商品売上構成

品目別	売上高(千円)	構成比(%)	前期比	主要商品
油脂・乳製品	704,895	9.0	5.5%減	植物性油脂・マーガリン・油脂贈答品
調味料	2,333,560	30.0	5.9%減	醤油・味噌・砂糖・塩・酢・カレー・シチュー・蜂蜜・マヨネーズ
嗜好品・飲料	1,183,324	15.2	3.2%減	菓子・果汁飲料・お茶・キャラップ
乾物・雑穀	767,767	9.9	1.6%減	小麦粉・パン粉・米・昆布・鰹節
副食品	1,520,635	19.5	0.8%増	梅干・漬物・ジャム・スープ・レトルト食品・冷凍食品・生鮮食品・麺類
栄養補助食品	937,848	12.0	23.3%減	葉緑素・アガリクス・キダチアロエ・各種エキス
その他	341,449	4.4	12.1%減	トイレタリー・機械器具・化粧品
合計	7,789,481	100.0	6.7%減	

### 品目別主要商品仕入構成

品目別	仕入高(千円)	前期比
油脂・乳製品	501,958	6.6%減
調味料	1,802,766	6.9%減
嗜好品・飲料	871,474	6.7%減
乾物・雑穀	593,516	2.5%減
副食品	1,098,812	3.2%増
栄養補助食品	707,876	21.5%減
その他	322,990	12.2%減
合計	5,899,394	7.1%減

## 連結財務諸表

### 連結貸借対照表

(平成20年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>流 動 資 産</b>	<b>2,683,503</b>	<b>流 動 負 債</b>	<b>1,728,673</b>
現金及び預金	1,239,170	支払手形及び買掛金	1,162,797
受取手形及び売掛金	1,138,825	短期借入金	382,613
有価証券	12,187	賞与引当金	17,793
たな卸資産	282,067	役員賞与引当金	1,800
繰延税金資産	2,325	その他	163,670
その他	20,252	<b>固 定 負 債</b>	<b>553,610</b>
貸倒引当金	△11,323	長期借入金	212,850
<b>固 定 資 産</b>	<b>846,720</b>	退職給付引当金	189,335
<b>有形固定資産</b>	<b>225,385</b>	役員退職慰労引当金	98,500
建物及び構築物	96,183	繰延税金負債	16,946
土地	109,944	その他	35,978
その他	19,256	<b>負 債 合 計</b>	<b>2,282,284</b>
<b>無形固定資産</b>	<b>8,994</b>	<b>純 資 産 の 部</b>	
投資その他の資産	612,340	<b>株 主 資 本</b>	<b>1,177,512</b>
投資有価証券	206,908	資本金	920,465
関係会社株式	5,103	資本剰余金	411,979
保険積立金	213,732	利益剰余金	△154,168
長期性預金	152,181	自己株式	△763
繰延税金資産	6,864	<b>評 価 ・ 換 算 差 額 等</b>	<b>25,301</b>
その他	106,298	その他有価証券評価差額金	25,301
貸倒引当金	△78,747	<b>少 数 株 主 持 分</b>	<b>45,126</b>
<b>資 産 合 計</b>	<b>3,530,224</b>	<b>純 資 産 合 計</b>	<b>1,247,939</b>
		<b>負 債 及 び 純 資 産 合 計</b>	<b>3,530,224</b>

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。



## 連結損益計算書

〔平成19年4月1日から  
平成20年3月31日まで〕

(単位：千円)

科 目	金 額
売 上 高	7,789,481
売 上 原 価	5,956,941
売 上 総 利 益	1,832,540
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	1,831,303
営 業 利 益	1,236
営 業 外 収 益	
受 取 利 息	2,202
受 取 配 当 金	2,373
破 損 商 品 等 賠 償 金	5,460
為 替 差 益	372
そ の 他	4,691
営 業 外 費 用	
支 払 利 息	16,277
持 分 法 に よ る 投 資 損 失	5,607
そ の 他	2,036
経 常 損 失	23,921
特 別 利 益	7,584
固 定 資 産 売 却 益	32,039
現 金 受 贈 益	20,000
特 別 損 失	
固 定 資 産 売 却 損	4,001
固 定 資 産 除 却 損	3,885
減 損 損 失	192,750
投 資 有 価 証 券 評 価 損	46,544
税 金 等 調 整 前 当 期 純 損 失	247,182
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	202,727
法 人 税 等 調 整 額	18,772
少 数 株 主 利 益	956
当 期 純 損 失	7,902
	230,359

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結株主資本等変動計算書

〔平成19年4月1日から  
平成20年3月31日まで〕

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	株主資本合計
平成19年3月31日残高	920,465	763,185	△ 275,015	△ 763	1,407,871
連結会計年度中の変動額					
当期純損失			△ 230,359		△ 230,359
欠損填補による 資本剰余金の取崩		△ 351,205	351,205		—
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の 変動額(純額)					—
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 351,205	120,846	—	△ 230,359
平成20年3月31日残高	920,465	411,979	△ 154,168	△ 763	1,177,512

(単位：千円)

	評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
平成19年3月31日残高	43,448	43,448	38,853	1,490,173
連結会計年度中の変動額				
当期純損失				△ 230,359
欠損填補による 資本剰余金の取崩				—
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の 変動額(純額)	△ 18,147	△ 18,147	6,272	△ 11,874
連結会計年度中の変動額合計	△ 18,147	△ 18,147	6,272	△ 242,233
平成20年3月31日残高	25,301	25,301	45,126	1,247,939

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

# 単体財務諸表

## 貸借対照表

(平成20年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>流 動 資 産</b>	<b>2,459,810</b>	<b>流 動 負 債</b>	<b>1,659,416</b>
現金及び預金	1,138,603	支払手形	573,442
受取手形	84,108	買掛金	540,464
売掛金	974,527	短期借入金	200,000
有価証券	12,187	一年以内返済予定長期借入金	181,388
商品	228,375	未払金	96,837
貯蔵品	9,737	未払法人税等	7,274
前払費用	8,907	未払消費税等	17,101
未収還付法人税等	1,451	未払費用	16,771
その他	12,815	預り金	8,911
貸倒引当金	△ 10,903	賞与引当金	15,231
<b>固 定 資 産</b>	<b>837,693</b>	その他	1,993
<b>有形固定資産</b>	<b>208,332</b>	<b>固 定 負 債</b>	<b>531,583</b>
建物	89,080	長期借入金	212,550
構築物	723	長期預り保証金	30,330
車両運搬具	490	退職給付引当金	189,335
工具器具備品	10,267	役員退職慰労引当金	81,900
土地	107,547	繰延税金負債	16,946
建設仮勘定	222	その他	521
<b>無形固定資産</b>	<b>8,741</b>	<b>負 債 合 計</b>	<b>2,191,000</b>
電話加入権	3,961	<b>純 資 産 の 部</b>	
ソフトウェア	2,187	<b>株 主 資 本</b>	<b>1,081,400</b>
その他	2,593	資本金	920,465
<b>投資その他の資産</b>	<b>620,619</b>	資本剰余金	411,979
投資有価証券	206,231	資本準備金	411,979
関係会社株式	35,106	利益剰余金	△ 250,281
出資金	65	その他利益剰余金	△ 250,281
長期貸付金	2,554	繰越利益剰余金	△ 250,281
関係会社長期貸付金	3,793	自己株式	△ 763
破産更生債権等	70,066	<b>評価・換算差額等</b>	<b>25,103</b>
差入保証金	22,850	その他有価証券評価差額金	25,103
会員権	4,450	<b>純 資 産 合 計</b>	<b>1,106,504</b>
保険積立金	195,893	<b>負 債 及 び 純 資 産 合 計</b>	<b>3,297,504</b>
長期前払費用	786		
長期性預金	152,181		
その他	1,898		
貸倒引当金	△ 75,258		
<b>資 産 合 計</b>	<b>3,297,504</b>		

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

# 損益計算書

〔平成19年4月1日から  
平成20年3月31日まで〕

(単位：千円)

科 目	金	額
売 上 高		7,285,030
売 上 原 価		5,613,675
売 上 総 利 益		1,671,355
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		1,700,751
営 業 損 失		29,396
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	1,816	
有 価 証 券 利 息	507	
受 取 配 当 金	7,161	
為 替 差 益	372	
破 損 商 品 等 賠 償 金	5,338	
受 取 賃 貸 料	2,040	
業 務 受 託 手 数 料	2,400	
そ の 他	3,753	23,390
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	16,021	
賃 貸 原 価	435	
そ の 他	2,031	18,488
経 常 損 失		24,495
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	32,039	
貸 倒 引 当 金 戻 入 益	2,958	34,998
特 別 損 失		
固 定 資 産 売 却 損	4,001	
固 定 資 産 除 却 損	3,866	
減 損 損 失	192,750	
投 資 有 価 証 券 評 価 損	46,544	
関 係 会 社 株 式 評 価 損	6,850	254,012
税 引 前 当 期 純 損 失		243,509
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税		6,771
当 期 純 損 失		250,281

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

〔平成19年4月1日から  
平成20年3月31日まで〕

(単位：千円)

	株 主 資 本			
	資 本 金	資 本 剰 余 金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
平成19年3月31日残高	920,465	763,185	—	763,185
事業年度中の変動額				
資本準備金の減少		△ 351,205	351,205	—
利益準備金の減少				
欠損填補による その他資本剰余金 及び別途積立金の取崩			△ 351,205	△ 351,205
当期純損失				
株主資本以外の 項目の事業年度中 の変動額(純額)				
事業年度中の変動額合計	—	△ 351,205	—	△ 351,205
平成20年3月31日残高	920,465	411,979	—	411,979

(単位：千円)

	株 主 資 本			
	利 益 剰 余 金			利益剰余金 合計
	利益準備金	そ の 他 利 益 剰 余 金		
		別途積立金	繰越利益剰余金	
平成19年3月31日残高	122,375	424,000	△ 897,580	△ 351,205
事業年度中の変動額				
資本準備金の減少				
利益準備金の減少	△ 122,375		122,375	—
欠損填補による その他資本剰余金 及び別途積立金の取崩		△ 424,000	775,205	351,205
当期純損失			△ 250,281	△ 250,281
株主資本以外の 項目の事業年度中 の変動額(純額)				
事業年度中の変動額合計	△ 122,375	△ 424,000	647,299	100,924
平成20年3月31日残高	—	—	△ 250,281	△ 250,281

(単位：千円)

	株 主 資 本		評 価 ・ 換 算 差 額 等		純資産合計
	自 己 株 式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
平成19年3月31日残高	△ 763	1,331,681	43,161	43,161	1,374,842
事業年度中の変動額					
資本準備金の減少		—			—
利益準備金の減少		—			—
欠損填補による その他資本剰余金 及び別途積立金の取崩		—			—
当期純損失		△ 250,281			△ 250,281
株主資本以外の 項目の事業年度中 の変動額(純額)			△ 18,057	△ 18,057	△ 18,057
事業年度中の変動額合計	—	△ 250,281	△ 18,057	△ 18,057	△ 268,338
平成20年3月31日残高	△ 763	1,081,400	25,103	25,103	1,106,504

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 株主ご優待制度のご案内

株主の皆様へ日頃のご支援にお応えするとともに、当社商品のご利用を通じて、事業内容をより一層ご理解いただくため、毎年3月31日の最終株主名簿に記載または記録された1,000株以上ご所有の株主の皆様に対して、3,000円相当の自社取扱商品を贈呈しております。また、毎年9月30日の最終株主名簿に記載または記録された2,000株以上ご所有の株主の皆様に対して、3,000円相当の自社取扱商品を贈呈しております。

※ 実施時期 年2回（3月：1,000株以上 9月：2,000株以上）

### ご参考

前年（平成19年）3月期株主ご優待品の内容

#### 株主優待品ご案内

創健社はお客様の健康を願い、商品の安全性を高める商品の開発、販売することを常に心がけております。この度は、本年度発売致しました新商品と寒さが厳しくなるこれからの季節にお召し上がりいただきたい品々をお届けさせていただきました。

#### ジロロモーニ 有機スパゲッティ 各500g

（デュラム小麦・全粒粉デュラム小麦・古代小麦）

イタリア有機農業の先駆者ジーノ・ジロロモーニ氏が手がける有機パスタ3品です。ジロロモーニ氏が代表を務める有機専門農業協同組合の組合員と組合に認定された農家が生産する有機小麦のみを原材料に作られました。人に自然に安全で何よりもおいしいオーガニックスパゲッティです。

デュラム小麦スパゲッティは、セモリナ挽き（粗挽き）ならではのコシと有機デュラム小麦本来の風味をお楽しみいただけます。

全粒粉スパゲッティは、有機デュラム小麦の一番外側の表皮のみを削り、栄養豊かな胚芽とふすまごとセモリナ挽きをした粉から作られました。そばにも似た食感と噛むほどに小麦の味わいが感じられます。また、食物繊維、鉄、マグネシウム、亜鉛、ビタミンB6が豊富に含まれており、よりヘルシーです。

古代小麦グラツィエツラ・ラ スパゲッティは、イタリア人考古学者が70年代に古代エジプトの遺跡から発掘したと伝えられている古代種の小麦から作られました。

ジロロモーニ氏は幾多の困難を乗り越えて栽培に成功し、2005年にパスタが出来上がり、このたび日本でも発売することが出来ました。もちもちとした食感とナッツのようなほのかな甘みをお楽しみいただけます。

### 国産野菜の五目ちらし寿司の素 150g

国内産野菜（人参、れんこん、無漂白干びょう、しいたけ）と国内産大豆の油揚げなどの具材を「越前小京都の有機純米酢（弊社商品）」で仕上げた五目ちらし寿司の素です。炊き上げたご飯に混ぜていただくだけで、やさしい酸味、まるやかな味わい、上品で華やかな香りが引き立つ本格的な「ちらし寿司」が手軽にお楽しみいただけます。素材の味を大切に、化学調味料・保存料などの合成食品添加物は使用しておりません。2合用（2～3人前）

### メイシーちゃんのおきにいり

（イチゴとぶどうのラムネ 80g・野菜せんべい 55g・海藻せんべい 50g・ABCのビスケット 40g・動物園のビスケット 70g・きらきら星のおせんべい 40g・サクサクドライワッフル 5枚・黒糖のウエハース 15個・イチゴのヨーグルトウエハース 12個）

絵本やアニメで日本でも小さなお子様に人気のあるイギリスの有名キャラクター「メイシーちゃん」をパッケージデザインに取り入れたお子様向けのお菓子シリーズです。

原材料の持つ自然なおいしさにこだわって作り上げました。成長期で消化器官が小さくて一度に量を摂取できないお子様にとりましては、おやつは大切な栄養源です。そのお子様たちにとってより安全でおいしく、しかも楽しく召しがっていただきたい商品シリーズです。



## 会社概要

商号 株式会社 創健社  
 英訳名 Sokensha co., Ltd  
 所在地 〒221-8741  
 横浜市神奈川区片倉 2-37-11  
 TEL(045)491-1441  
 設立 昭和43年2月5日  
 (株式会社店頭登録 平成6年11月、  
 証券コード：7413)  
 資本金 9億2,046万5千円  
 決算期 3月31日(年1回)

## 取締役及び監査役

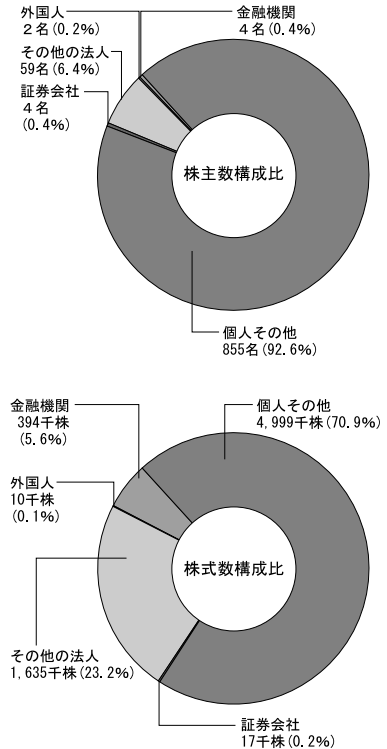
地 位	氏 名
代表取締役社長	中 村 靖
専務取締役	森 田 英 男
取 締 役	本 田 次 男
取 締 役	福 永 安 里
取 締 役	岸 本 英 喜
取 締 役	藤 川 清 士
常 勤 監 査 役	大 石 信 久
監 査 役	氏 家 宏 明
監 査 役	服 部 昭 一
監 査 役	的 場 堅 志

## 株式の状況

会社が発行する株式の総数 20,000,000株  
 発行済株式の総数 7,055,000株  
 一単元の株式数 1,000株  
 株主数 924名

## 大株主

株 主 名	持 株 数
中 村 靖	829,500株
中 村 澄 子	782,000株









株式会社 創健社

横浜市神奈川区片倉二丁目37番11号  
TEL045(491)1441(代) 〒221-8741

### 株主メモ

**事業年度** 4月1日から翌年3月31日まで  
**定時株主総会** 毎年6月に開催  
**基準日** 定時株主総会の議決権 3月31日  
**期末配当** 3月31日  
※その他必要がある場合は、あらかじめ公告する一定の日

**公告方法** 電子公告により行います。  
<http://www.sokensha.co.jp/company/>  
ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。  
なお、当社の貸借対照表ならびに損益計算書は、EDINET（金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム）にて開示しております。

**株主名簿管理人** 大阪市中央区北浜二丁目4番6号  
株式会社だいこう証券ビジネス

**同事務取扱場所** 東京都中央区日本橋兜町14番9号  
株式会社だいこう証券ビジネス 東京支社

**同 取 次 所** 株式会社だいこう証券ビジネス  
本社および各支社

#### 【郵便物送付先】

〒541-8583 大阪市中央区北浜二丁目4番6号  
株式会社だいこう証券ビジネス 証券代行事務センター

#### 【各種お問合せ先】

- 株式事務に関するご照会  
電話 0120-255-100（フリーコール）
- 株式関係手続用紙ご請求  
電話 0120-351-465（フリーコール）  
WEBサイト <http://www.daiko-sb.co.jp/>



環境にやさしく……本紙は再生紙を使用しております。